幼児の健康な心と体を育む

～「環境」を生かした遊びを通して～

発表者　塩釜ひまわり幼稚園　（主幹教諭）　渥美恵理子　（教諭）　峯岸緒里恵
共同研究者　しげる幼稚園園長　小野寺靖子

研究主題のとらえ方

「健康な心と体」は生涯にわたり健全な生活を営むための基盤で幼児期にその基礎を養う。幼児が活発に遊び豊かに活動するために家庭と連携しながら育まれるもので、幼稚園の果たす役割は大きい。今回の研究では、幼児の「健康な心と体」を育むために、幼児期にふさわしい発達を促し健やかな成長のために必要な経験をする場として望ましい「環境」の構成を課題とする。園の「環境」を再確認し、バランスの良い構成になっているか、また、「環境」のいかし方を考え、幼児の遊びを研究する。そして「環境」が与える子どもへの影響はどのようなものになるのかいろいろな場面で検証したい。

研究の手がかり

～　公開保育　～　　年少組　「色水遊び」

いつもと違う環境に緊張気味の子ども達

朝顔のつるや葉に興味津々の表情

花や水を加えると色水に濃淡ができることを発見！！

色水遊びを行い子どもたちからこんな気づきがありました

園の豊かな環境をいかした遊びを考えた時に、施設的な環境に目が行きがちだった。その環境をどのようにいかせるかを考え、保育内容を検討し活動に取り入れた。『環境をいかす』は、子どもが何を経験したか、どんな活動ができたか、ではなく、活動したことによって何を身につけてほしいのか、何が身についたのか、が本質であることを学んだ。家庭で出来ないことを園生活の中に盛り込み、集団の醍醐味を味わえるようにする。今回の色水遊びで幼児の様々な気付きがあったように、保育者がきっかけを作り、幼児自らの気付きを拾うことにより次の経験に繋がっていく。人的環境、保育者こそが一番の環境だということを再確認し、幼児自身が健康な心と体を育む力を養えるように働きかけていきたい。

～『付箋』を使ったファシリテーションを通して～

問い作り

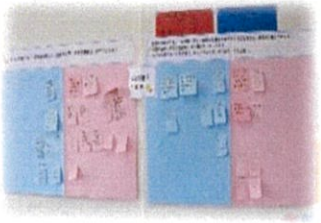
・今回テーマとした「環境」の構成は、　第三者から見てどう見えているのだろうか
・押しつけや、保育者の独りよがりになってはいないだろうか
・参加者の意見が欲しい

参加者への投げかけ

問い　色水作りの活動について教師の関りや環境構成はいかがでしたか？

ファシリテーションの実践

参加者の意見



実際に保育室に貼られたふせん

同じような内容をまとめたふせん

季節に合った草花で楽しめていた

子どもがいきいきしていた

「魔法の水」という言葉がけが良かった

“匂い”に気付いた子への対応が素敵だった

ﾁｰﾑﾃｨｰﾁﾝｸﾞで子どもの声をたくさん拾えていた

他の草花でも試してみては？

朝顔の花を摘み取るところから始めても楽しかったのでは

色水で描いた絵は見えづらかった

色が薄いかなと思った

★ピンクのふせんは、参加者から共感を得られた意見で、保育者としては“見どころ”を見てもらえたと感じた。
★ブルーのふせんは、参加者からの疑問や質問で、自分たちの保育をもう一度見直すきっかけとなった。
○色が薄い・・の意見について⇒指導助言者から、研修のまとめで「当日の目的は“あさがお”という自然の物で色水を作るという体験をすることであったわけで、出来上がりが薄い色水であっても、『体験してほしい活動』になっていたと思う。」という講評をいただいた。このふせんと講評で「幼児が幼稚園で経験する事柄は何を一番大切にするべきなのか」を再確認できた。この経験から、ブルーのふせんが、「保育者にとってあまりうけとりたくないもの」となるのではなく、「自分たちの学びや気づきには必要なもの」というとらえかたに変わった。

ファシリテーションで得たこと

「**問い**」**は、**参加者はその日の保育のどこに着目して意見を出せばよいかの視点となった。
「**ファシリテーター**」**で**全ての意見を肯定的に受け止めつつ、大事なことを共有していく場になった。討議の内容が論点からそれることがなかった。

塩釜ひまわり幼稚園

教育目標

『健康で自立心に富む子ども、個性的で、創造性豊かな子どもに育つよう個々の幼児の特性をふまえ、豊かな環境から、より多くの経験をうながす教育を実践する』

園児数 206 名

年長 3 クラス

年中 3 クラス

年少 2 クラス

園の特色

・異年齢保育、小中高生や地域の方々とのふれあいを通し集団生活の中で育まれる人との関りを重要視する

・日々の保育に家庭と連携しながら幼児の体力向上につながる活動を取り入れ、健康な心身を育成する

・栄養バランスを考えた園内調理の手作り給食は、“家庭的な食事”をモットーとしており、旬の食材や地産地消を積極的に取り入れた食育を実施する